

令和8年8月31日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

近江八幡市長 徳永 久志

市町村名 (市町村コード)	近江八幡市 (252042)	
地域名 (地域内農業集落名)	土田町 (土田)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年8月27日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

耕作者の高齢化や減少が進み、担い手に耕作地が少しずつ集積、集約されてきている。一方、地域内の都市開発計画が進み農地の減少、また農作業に起因する埃・煙・臭気・騒音・泥土等の回避に営農上弊害が出てきている。加えて、資材・農機具の高騰等により経営が悪化しており後継者が育たない。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・水稲及び小麦、大豆を主要作物としつつ、ブロックローテーションを基本に生産性の高い農業を進める。
- ・併せて、新規作物を導入し、新たな地域の特産の生産を進める。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	37 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	37 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

集落での利用が行われる範囲を表示している。隣接する集落との協議により、変更の場合がある。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
担い手を中心に集積・集約化を進め、農地バンクを通じて団地面積の拡大を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
担い手への経営意向を踏まえ、段階的に集約化する。その際、所有者の貸付意向時期に配慮する。
(3)基盤整備事業への取組方針
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、市町村及びJAと連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☒	②有機・減農薬・減肥料	☒	③スマート農業	☐	④畑地化・輸出等	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨耕畜連携等	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ②栽培作物の経費、労力削減を図るとともに、有利販売へ結びつける。
 ③次世代農業として、取り入れられるところから導入する。